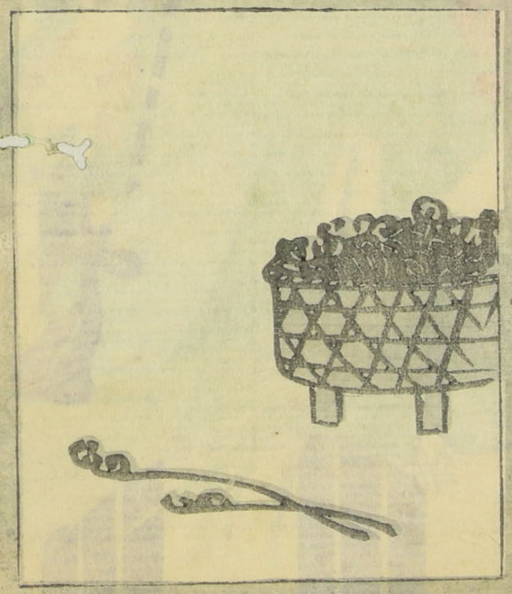
十社
紅
金松堂
壽梓
二編上

∧13
4323

浅草芽

二編上



多多良伴信友 考定

辻如山 考証

〈2002-228〉

凡一帙二十張短くて二場短くて三場四場地を異人に異て見る人の目端を新るゞ草冊子の定法なれども、其事を結ぶで後に残りて、奇楠薫らせく衣に留む、懐石食て茶と喫し、心ちのこりて凝痛き物あり と云雲顧達の、あるにも非ず、且大概は其夜の結果までを一續けに書綴る此愚作猶三篇に到るまでも、事は異まで人物は僅十人十一人、同じ名壺もお熟染の深くあるのゞよろこんと、飽らでも心づろで、諄々しの譏もあるべど、解易いを専一に、言餘してあくゆうに、幽めたる筆はつるたゞ、半面美人の聯よろうも、額の三平二満の頬端張切と書詰るのゞ、読ふも徳用水茶舗の處女ゞさも徒然なる手に觸らゞ浅草の、觀音の利益とあるべゞ

慶應三年丁卯春新版

柳亭種彦

五條家の
判官
道知
夏眺望
夏華の
ながめ
富士のね

五條家の
側室
濱松
擬墨絵
檜前
刀祢
三
後
家
牧

松
御使
詩中

立場
福井

田

岩

姓名帳
松
寿
寿

寿

つづき
松

金華七變化 十七編より 鶴亭秀賀著作 廿五編迄 梅蝶樓國貞画

右八珠の外御評判宜しく作者重工二世一代の新案新工夫をこらしまた駄洒落に念を入れ古今の美本と做し一ツ式看官競て高覧をねがふ云

水鏡山鳥奇談 四編 秀賀作 五編 國周画

蓬莱嶋臺 三編 魯文作
壽盃 偶儡師 四編 國綱画

花の御所九重日記 初編より 秀賀作 追々出版 國貞画

文 地本雙紙問屋 金松堂 横山町三丁目 辻岡屋文助梓

本製本手油 日本橋通十軒店 繪双紙 武蔵屋勝之助

へ13
4323